

# 危機管理マニュアル

## 【リスク発生時の行動】

## 目 次

1 基本方針 .....	2
2 リスク発生時の体制 .....	3
3 リスク発生時の行動（事象別対応） .....	5
(1) 地震が起きた場合の行動 .....	5
(2) 火災が起きた場合の行動 .....	7
(3) 事件・事故が発生した場合の行動 .....	9
(4) 病院・負傷者が発生した場合の行動 .....	9
(5) 放送文例集 .....	11
4 避難経路図 .....	14
5 避難場所 .....	18
6 Q&A よくあるご質問 .....	19

# 1 基本方針

本マニュアルは、富山国際会議場(以下当施設)で発生する恐れがあるリスク(災害、事件・事故などの事象)に備えるものです。

## ■ 目 的

- リスクに備えて日常から準備をしておく。
- 利用者、職員・関係者の命を守る。
- 利用者、職員・関係者の安全を確保する。
- 適切な対応を実施し、被害を最小限に抑える。
- 利用者に安心して当施設を利用していただく。

## ■ 基本方針

### 安全を最優先に行動する

自身の安全を確保したうえで、利用者、職員・関係者の安全を最優先に行動する。

### 落ち着いて行動する

あわてて行動すると、二次災害の恐れや周囲に大きな不安を与えることになる。火災や大地震等のリスク発生時も、落ち着いて行動する。

### 被害の拡大を防止する

安全を最優先に迅速に行動することで、二次被害や被害の拡大防止に努める。

## 2 リスク発生時の体制

### ■ リスク発生時の体制と役割（火災発生時の例）

#### ■ 緊急対応班の編成と役割 <富山国際会議場の体制>

役 割	担当部署	行動内容
避難誘導班	企画営業	火災発生時、催事場所へ向かう。 催事担当者（関係者）に火災状況を伝える。 初期消火が困難で火災が拡大する可能性がある場合は避難誘導を実施。（避難誘導ルートは館内放送を確認） 初期消火にて鎮火した場合、主催者と催事継続／中止の判断を行う。
通報連絡班	中央監視員	出火場所の確認。消火班に現地確認を指示。 火災発生場所、初期消火班が現地確認中である旨を館内放送にて伝える。 消防署、ANAクラウンプラザホテル富山防災センターに現状報告。 初期消火状況（鎮火、消火不能）を確認し館内に放送。 消火不能の場合は、館内放送にて避難指示を行う。
消火班	技術	通報連絡班より出火場所と現地確認の指示を受けて現地へ向かう。 出火の状況を判断し初期消火実施。 鎮火、消火不可能の判断を行い通報連絡班に連絡する。

#### ■ 主催者側の体制

役 割	行動内容
責任者	富山国際会議場と調整を行い、催事の継続／中止判断を行う。
通報連絡	火災を発見した場合、直ちに富山国際会議場事務所に連絡する。
消火	近くの消火器等を利用して初期消火を行う。 (自身の安全を最優先に行動する)
避難誘導	避難指示の放送が流れた場合（または危険を感じた場合）、催事参加者・関係者の避難誘導を行う。

### ■ 緊急連絡先

警察110 富山中央署	076-444-0110
消防119 富山消防署	076-493-4141
富山国際会議場 中央監視室	076-493-4467
富山国際会議場 事務所	076-424-5931

## ■ 施設利用開始前に確認しておく項目

当施設を利用する前に以下の項目を確認しておいてください。

チェック	確認事項	確認後記入	補足事項
<b>当施設の設備等</b>			
<input type="checkbox"/>	富山国際会議場 中央監視室 および事務所の連絡先	中央監視室：076-493-4467 事務所：076-424-5931	当施設の中央監視室(事務所)の電話番号、連絡方法を確認
<input type="checkbox"/>	避難経路の確認	近い方の階段は(どちらかに○) ( 南階段 ・ 北階段 )	北階段、南階段への経路、階段の位置を確認しておく(避難経路図確認)
<input type="checkbox"/>	避難場所の確認	近くの避難場所は ( )	当施設から屋外に避難する際の避難場所の確認
<input type="checkbox"/>	消火設備の位置	近くの消火器・消火栓を確認	利用する部屋内の消火器の位置、最寄の消火栓の位置を確認
<input type="checkbox"/>	消火設備の使い方	消火器・消火栓の使い方	消火器、消火栓の使用方法の確認
<input type="checkbox"/>			
<b>主催者の役割</b>			
<input type="checkbox"/>	責任者	責任者は( )です	主催するイベントの責任者の氏名記入(リスク発生時に中心となる人)
<input type="checkbox"/>	通報連絡担当	通報連絡担当は ( )です	火災を見た場合の通報、富山国際会議場への連絡を担当する人の氏名を記入
<input type="checkbox"/>	消火担当(初期消火担当)	消火担当は ( )です	火災が発生した場合、消火器・消火栓を利用して初期消火を行う人の氏名を記入
<input type="checkbox"/>	避難誘導担当	避難誘導担当は ( )です	避難指示がでた場合、催事参加者・関係者の避難誘導を行う人の氏名を記入
<input type="checkbox"/>			

### 3 リスク発生時の行動（事象別対応）

#### (1) 地震が起きた場合の行動

状況		主催者	富山国際会議場	内 容
震度		地震発生		
1~4	5以上	催事参加者へ呼びかけ	地震放送	避難誘導班：地震が発生したことを主催者に知らせ、主催者のもとに向かう。
			地震発生情報提供	通報連絡班：避難誘導班、消火班に震源地、震度について連絡する。 避難誘導班：主催者に震源地、震度について伝える。
被害状況の確認				通報連絡班：火災の状況、館内の被害状況について確認する。 消防、警察に状況を連絡する。 避難誘導班：主催者に負傷者について確認する。
			初期消火	消火班：火災が発生している場合は初期消火を実施。 初期消火が不可能で火災が発生した場合は「(2)火災が起きた場合の行動(P.7)」を参照。 通報連絡班：消防、警察に状況を連絡する。
			応急救護	避難誘導班：負傷者を発見した場合は主催者と協力し応急救護を行う。 ※以降は「(4)病人・負傷者が発生した場合の行動(P.9)」を参照。
			全館非常放送(地震第1報)	通報連絡班：地震が発生したことを放送する。 放送文例(地震放送①(P.11))を参照
			全館非常放送(地震第2報)	通報連絡班：情報が入り次第、震度や震源地を放送する。 放送文例(地震放送②(P.11))を参照
			全館非常放送(地震第3報)	通報連絡班：津波の情報や停電の状況を放送する。 放送文例(地震放送③(P.11))を参照
			全館非常放送(地震第4報)	通報連絡班：避難の必要がある場合は館内放送を行う。 放送文例(地震放送④(P.12))を参照 ※避難の必要性については主催者と周囲へ協議し決定する。
		避難誘導		消火班：避難誘導を支援する。 避難誘導班：催事参加者の避難誘導を励行する。 通報連絡班：消防、警察に状況を連絡する。 ※避難経路図(P.14～)を参照。
			全館非常放送(地震第5報)	通報連絡班：交通情報等の状況を放送する。 放送文例(地震放送⑤(P.12))を参照
		催事継続判断		避難誘導班：催事の継続について主催者と協議する。

## チェックリスト

事前確認：呼びかけは（ ）が行います。  
「落ち着いてください」「走らないでください」「頭を守ってください」  
「揺れが収まつたら 火を消してください」

事前チェック：状況確認をする担当は（ ）です。  
火 災 なし・あり(場所は 燃えている物は ) → 中央監視室(または事務所)へ報告  
停 電 なし・あり → 中央監視室(または事務所)へ報告  
負傷者 なし・あり (発生場所：性別 およその年齢 症状 ) → 中央監視室(または事務所)へ報告  
119番通報を実施 した・しない → 中央監視室(または事務所)へ報告

事前チェック：初期消火をする担当は（ ）です。  
通報連絡する担当は（ ）です。  
消火器(消火栓)による初期消火 成功・失敗 → 中央監視室(または事務所)へ報告  
スプリンクラー散水 有・無 → 中央監視室(または事務所)へ報告

事前チェック：避難誘導をする担当は（ ）です。避難経路を確認  
避難障害がないことを確認  
避難先は（ ）  
誘導状況を中央監視室(または事務所)へ報告

## (2) 火災が起きた場合の行動

状況	主催者	富山国際会議場	内 容
	火災の発見		
	催事参加者へ呼びかけ	火災報知器鳴動	避難誘導班：火災報知器が鳴動したことを踏まえ、主催者のもとに向かう。 通報連絡班：火災の警報について放送を行う。 ※放送文例は(火災放送①(P.13))を参照
↓		各消防班 行動開始	通報連絡班：消火班、避難誘導班へ火災発生場所、現在の状況を伝える。 消火班：火災発生場所を確認し現地に向かう。 避難誘導班：主催者に対して現状を報告。
消火困難		初期消火	消火班：初期消火を実施。(消火困難) ※初期消火にて鎮火した場合は主催者と協議し継続の判断を行う。 避難誘導班：主催者に対して避難指示を行う 通報連絡班：消防、警察、近隣施設に状況を連絡する。 ※初期消火にて鎮火した場合でも消防、警察に連絡する。
	非常放送 (火災発生)		通報連絡班：火災が発生したことを放送で伝える。 ※放送文例は(火災放送②(P.13))を参照 ※放送エリアは状況に応じて限定する。
	非常放送 (避難)		通報連絡班：避難について放送で伝える。 ※放送文例は(火災放送③(P.13))を参照
	避難誘導		消火班：避難誘導を支援する。 避難誘導班：催事出席者の避難誘導を励行する。 通報連絡班：消防、警察、近隣施設に状況を連絡する。 ※避難経路図(P.14～)を参照。
	応急救護		避難誘導班：負傷者を見た場合は応急救護を行う。 ※以降は「(4)病人・負傷者が発生した場合の行動(P.9)」を参照。
	消防車・消防隊 誘導		消火班、通報連絡班にて連携し誘導する。
鎮火	非常放送 (鎮火)		鎮火の判断は消防が実施。 ※放送文例(鎮火放送(P.13))を参照
	催事継続判断		消防による原因調査が行われます。 催事継続は消防の判断によります。

## チェックリスト

事前確認：火災を発見した人は、( )に連絡します。呼びかけを行います。

消火器の位置を確認

消火栓の位置を確認

「火事だー」「消火器を持ってきてください」

「落ち着いてください」「走らないでください」

事前チェック：連絡通報する担当は( )です。

□火災（場所は 燃えている物は ） → 中央監視室（または事務所）へ報告

□停電 なし・あり → 中央監視室（または事務所）へ報告

□負傷者 なし・あり（発生場所：性別 およその年齢 症状 ） → 中央監視室（または事務所）へ報告

□119番通報を実施 した・しない → 中央監視室（または事務所）へ報告

※原則119番通報は中央監視室から行います（緊急を要する場合は直接通報）

事前チェック：初期消火をする担当は( )です。

連絡通報する担当は( )です。

□消火器による初期消火 成功・失敗 → 中央監視室（または事務所）へ報告

□消火栓による初期消火 成功・失敗 → 中央監視室（または事務所）へ報告

□スプリンクラー散水 有・無 → 中央監視室（または事務所）へ報告

事前チェック：避難誘導をする担当は( )です。

避難経路の場所を確認

避難障害がないことを確認

□避難先は( )

□誘導状況を中央監視室（または事務所）へ報告

事前チェック：情報提供をする担当は( )です。

□火点は( )  □避難は（完了・実施中）

□けが人は（人数 症状 ）  □逃げ遅れば（あります・ありません）

### (3) 事件・事故が発生した場合の行動

状況	主催者	富山国際会議場	内 容
	事件・事故の発生		
↓	催事出席者へ呼びかけ	状況確認	避難誘導班：事件・事故が発生したことを受けた 主催者のもとに向かう。
	被害状況の確認		通報連絡班：火災の状況、館内の被害状況について確認する。 消防、警察に状況を連絡する。 避難誘導班：主催者に病人・負傷者について確認する。
		応急救護	避難誘導班：負傷者を発見した場合は応急救護を行う。 ※以降は「(4)病人・負傷者が発生した場合の行動(下表)」を参照。
		救急車・消防隊誘導	消火班、通報連絡班にて連携し誘導する。
		消防・警察への説明と現場検証	通報連絡班：現場検証に協力する。
	事故検証完了	催事継続判断	避難誘導班：主催者と催事継続について協議する。

### (4) 病院・負傷者が発生した場合の行動

状況	主催者	富山国際会議場	内 容
	病人・負傷者発生		
↓	現場に急行	状況確認	避難誘導班：病人・負傷者が発生したことを受けた 主催者のもとに向かう。
	被害状況の確認		通報連絡班：火災の状況、館内の被害状況について確認する。 消防、警察に状況を連絡する。 避難誘導班：主催者に病人・負傷者について確認する。
		応急救護	避難誘導班：主催者と協力し応急救護を行う。
		救急車・消防隊誘導	消火班、通報連絡班にて連携し誘導する。
		消防・警察への説明と現場検証	通報連絡班：現場検証に協力する。
	検証完了		

## チェックリスト

事前チェック：安全防護する担当は( )です。  
連絡通報する担当は( )です。

事前チェック：状況確認をする担当は( )です。  
連絡通報する担当は( )です。

- 負傷者 なし・あり(発生場所：性別 およその年齢 症状) → 中央監視室(または事務所)へ報告  
110番119番通報を実施 した・しない → 中央監視室(または事務所)へ報告  
※原則110番119番通報は中央監視室(または事務所)へ報告(緊急を要する場合は直接通報)  
展示物の異常→なし・あり(何が どうした) → 中央監視室(または事務所)へ報告  
建物の異常→なし・あり(何が どうした) → 中央監視室(または事務所)へ報告

## チェックリスト

事前チェック：連絡通報する担当は( )です。  
発生場所 性別 およその年齢 症状 → 中央監視室(または事務所)へ報告  
119番通報を実施 した・しない → 中央監視室(または事務所)へ報告  
※原則119番通報は、中央監視室(または事務所)へ報告から行います(緊急を要する場合は直接通報)

事前チェック：AEDの位置を確認  
応急救護をする担当は( )です。

## (5) 放送文例集

### 地 震

#### 地震放送 ①

「館内の皆様に ご連絡いたします。  
ただいま(大きな) 地震が 発生しました。  
情報が 入り次第 お知らせしますので 身の安全を確保し  
落ち着いて 次の放送を お待ちください。」  
(ゆっくり、2回繰り返し)

#### 地震放送 ②

「こちらは、中央監視室です。  
先ほどの地震の情報です。  
震源地は●●●● 最大震度は● 富山市内は 震度● との情報が  
入っています。  
お怪我をされた方は 近くのスタッフまで ご連絡ください。」  
(ゆっくり、2回繰り返し)

#### 地震放送 ③

「こちらは、中央監視室です。  
ただいま 富山県に 津波警報(津波注意報、大津波警報)が  
発令されています。  
(富山市内全域 が 停電しています。)  
海岸や 川には 近づかないように してください。  
次の情報を お待ちください。」  
(ゆっくり、2回繰り返し)

## 地震放送 ④ 避 難

「こちらは、中央監視室です。

ただ今、

(「○階で火災が発生しました。」)

「富山市から避難指示が発令されました。」等、被害の内容を説明 )

館内の皆様はスタッフの指示に従って避難してください。

なお、エスカレーター と エレベーターは使用できません。

(ゆっくり、2回繰り返し)

## 地震放送 ⑤ (周辺情報の提供)

「こちらは 中央監視室です。

先ほどの地震の情報です。(周辺の情報を提供)

路面電車・鉄道・新幹線は 運行を停止しています。

高速道路も 一部 通行止めとなっているとの情報が入っています。

また 情報が入り次第 お伝えします。」

(ゆっくり、2回繰り返し)

# 火 災

## 火災放送 ① 自動火災報知設備が発報した場合の放送(確認中の放送)

「こちらは、中央監視室です。  
ただ今〇階で、自動火災報知設備が作動しました。  
現在、確認しておりますので、係員の指示があるまでお待ちください。  
消火班は、確認を行い中央監視室に報告してください。」

## 火災放送 ②

「こちらは、中央監視室です。  
ただいま〇階〇室で火災が発生しました。初期消火を行っています。  
館内の皆様は、次の放送に注意して、落ち着いて行動してください。」

## 火災放送 ③ 火災が確定した場合(火災が発生した場合)の放送

「こちらは、中央監視室です。  
ただ今〇階で、火災が発生しました。  
お客様は、スタッフの指示に従って 避難してください。  
消火班は、初期消火を実施してください、  
避難誘導班は、避難誘導を実施してください。  
エスカレーター、エレベーターは使用できません。」

## 鎮火放送　　鎮火(消火完了)の放送

「こちらは、中央監視室です。  
さきほど〇階で、発生した火災の消火は完了しました。  
ご安心ください。」

## 【参考】誤報の場合　警報は鳴ったが、火災でなかった(誤報)場合の放送

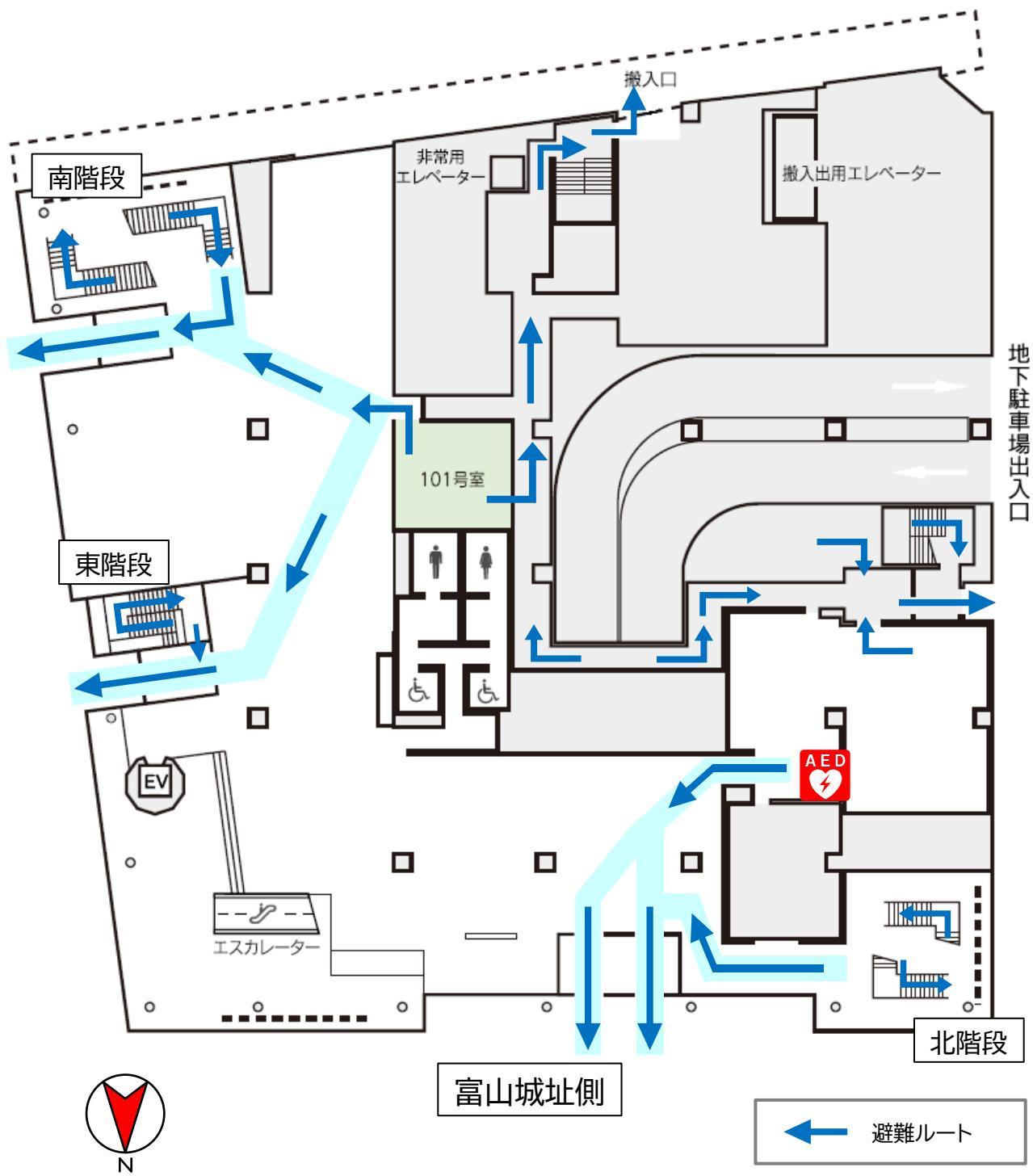
「こちらは、中央監視室です。  
ただ今〇階で、自動火災報知設備が作動しましたが、確認したところ  
火災ではありませんでした。  
ご安心ください。」

## 4 避難経路図

### ■ 非常口と避難ルート

事前に避難経路を確認しておいてください。

1 F

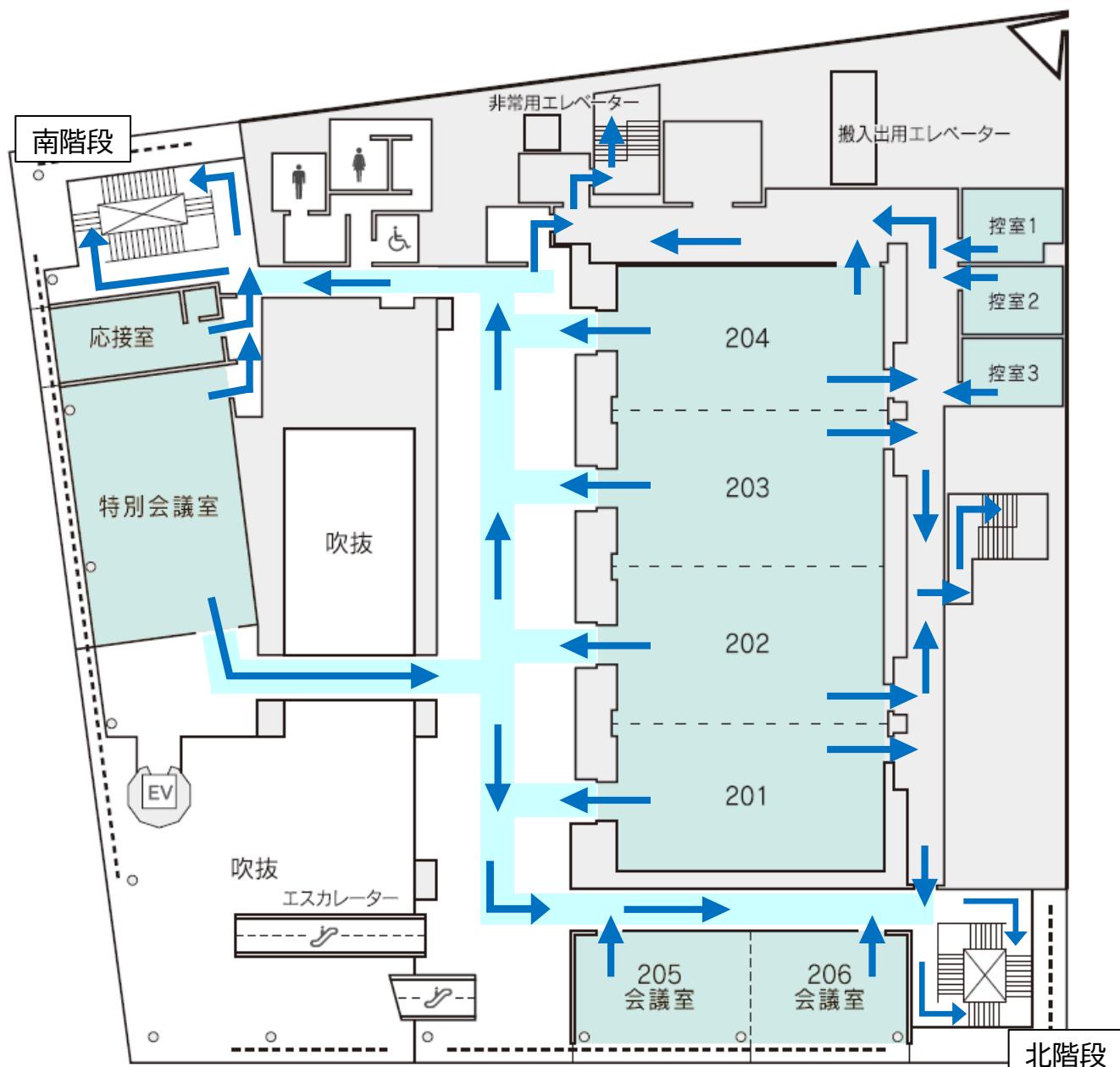


富山城址側

← 避難ルート



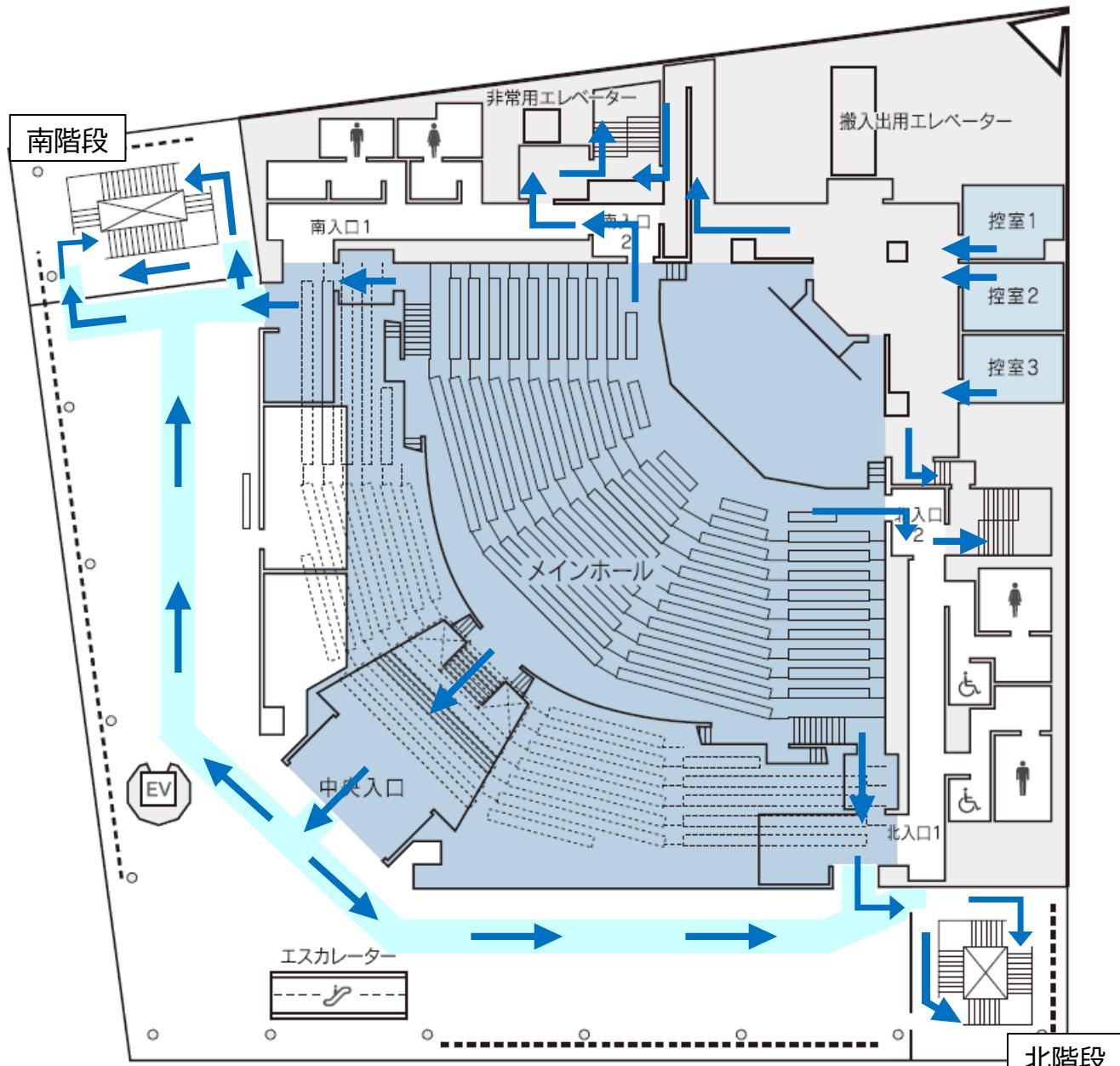
## 2 F



富山城址側

← 避難ルート

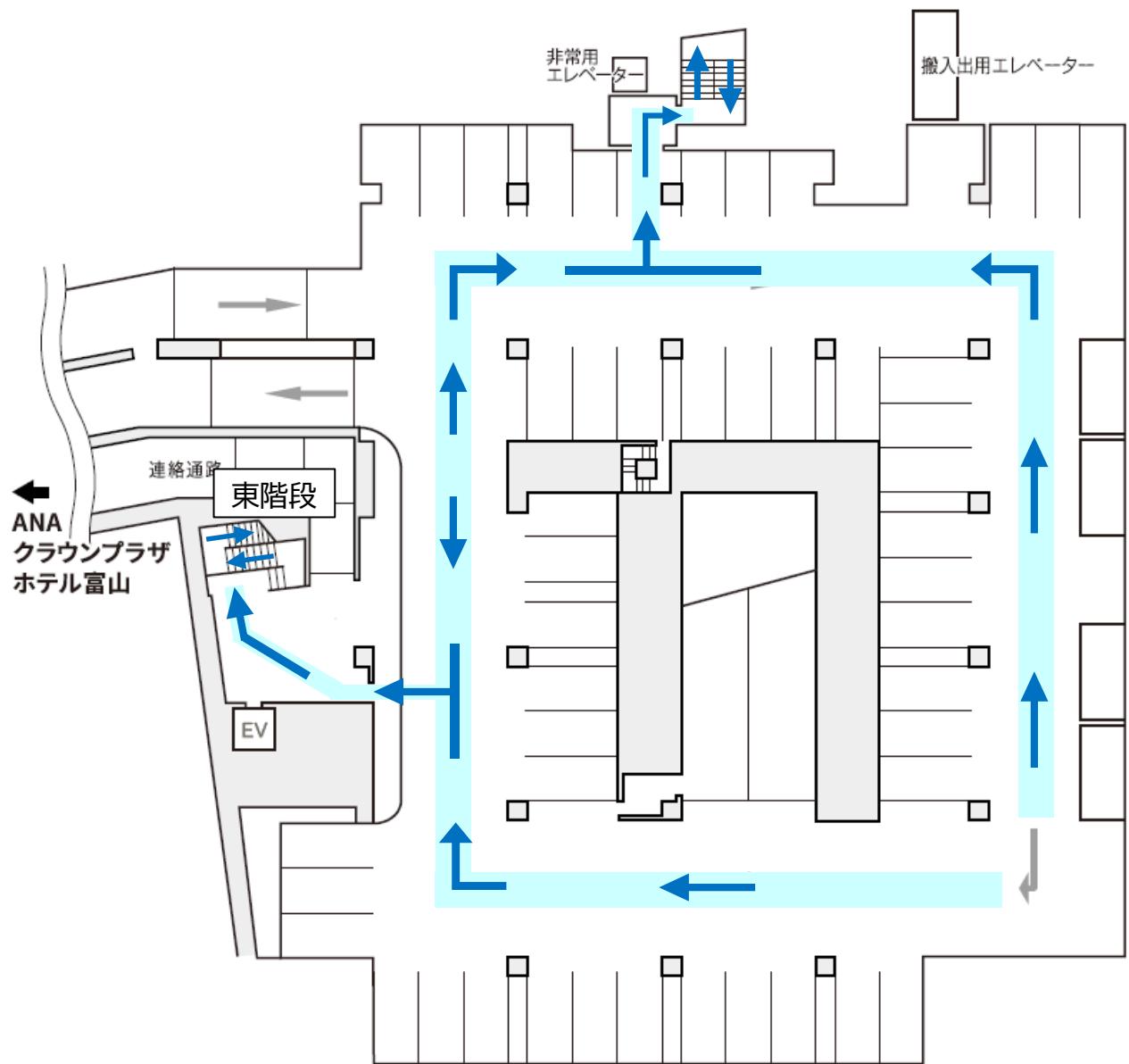
## 3F・4F



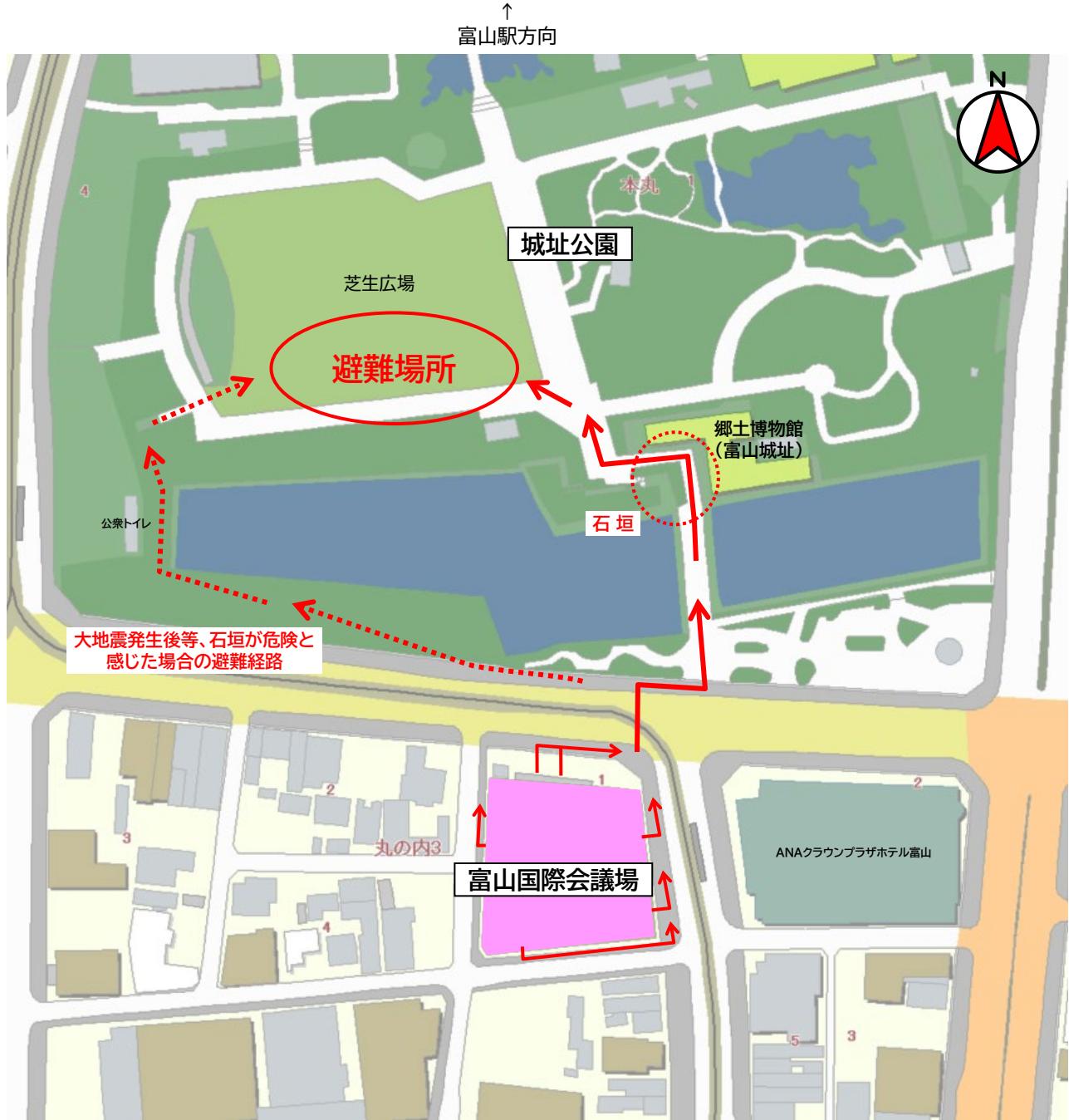
富山城址側

← 避難ルート

## 地下駐車場



## 5 避難場所



© 2024 ZENRIN CO.,LTD.(Z24BB第3965号)

広域避難場所(地震・火災想定)：城址公園

## 6 Q&A よくあるご質問

Q:建物の耐震基準について

A:建築基準法の新耐震基準に適合する設計で建設されています。

補足:新耐震基準の目的

- ・震度5強程度の地震に対して、ほとんど損傷を生じません。
- ・震度6強から7程度に対しても、人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じません。  
但し、構造の崩壊は免れてもガラスの破損、器具、機材類、壁や天井の仕上材が落下することは想定されます。

Q:エレベータの運転について

A:停電時:停電管制が働きます。一旦停止しその後、非常電源で最寄り階まで運転します。

A:地震発生時:地震管制が働きます。概ね震度3程度の地震を感知すると、最寄り階まで運転します。

A:火災発生時:火災管制が働きます。一旦停止しその後、非常電源で最寄り階まで運転します。

Q:エスカレーターの運転について

A:地震・火災発生時に停止はしません。但し、衝撃により安全装置が働いて停止する場合があります。

Q:停電時の稼働機器について

A:停電時使用できる機器は、非常用発電機、又は蓄電池設備から給電されている一部に限られます。

非常照明、非常放送、消防設備、電話交換機設備等の運用となります。

Q:緊急地震速報の扱いについて

A:施設から緊急地震速報の情報提供は、行っておりません。

Q:AED設置場所について

A:1階事務所に設置してあります。

令和7年12月作成

